

<p>PSB (Process Safety Beacon) 2008年9月号 の内容に対応</p>	<p>SCE・Net の <b>安全談話室</b> (No.28) <a href="http://www.sce-net.jp/anzen.html">http://www.sce-net.jp/anzen.html</a></p>	<p>化学工学会 SCE・Net 安全研究会作成 (編集担当:加治 久継)</p>
<p style="text-align: center;"><u>9月のテーマ:プラントの保安</u> (PSB 翻訳担当:加治、小林)</p> <p>司会: 今月はテロに対する工場の保安に関する対応ですが、いかがですか。</p> <p>渋谷: 日本の場合テロに対してはあまり配慮されていないと思いますが、9月11日の後原子力関連施設を中心にテロ対策の指示が出たのではなかったでしょうか。</p> <p>加治: 少なくとも化学企業に関しては、あまりはっきりした指示はなかったように思います。</p> <p>小林: 個別の企業レベルでは、公害に対する抗議行動が政治行動と結びついた時や、首都圏で政治的なテロが発生した時には、工場でも見張り番を増やしたり、パトロールを強化したことはあります。</p> <p>日置: むしろ日本の場合、日常的には盗難対策としての保安面が強いのではないのでしょうか。</p> <p>長安: 原発はテロの対象となりえますが、化学工場を狙う意味はあるのでしょうか。</p> <p>牛山: 液化ガス等の可燃物を大量保有している工場は、狙われたら怖いですよ。</p> <p>渋谷: 苫小牧の石油備蓄基地のような、国レベルで管理が必要なものに関しては、テロ対策としてのゲート管理は嚴重のようです。</p> <p>小谷: 一般にゲート管理はまずまずでしょうが、サイト周辺の塀や柵などの仕切りは甘いように思います。テロ対策としては無防備、特に空からの攻撃に対してはお手上げですね。</p> <p>加治: テロに対しては、取るべき対策の指針がないのが実情でしょう。</p> <p>小谷: 日本では、化学プラントに対するテロの経験がなく、指針の作りようもないでしょうね。爆弾テロのほかに、化学プラントではサイバーテロの可能性もありますね。何年前かに読んだアメリカの雑誌に、会社に恨みを持った計装技術者が、自宅で密かに会社の制御システムを外部から攻撃することを思いつき作業を始めた、というストーリーが載っていました。Wikipedia にも、現実にアメリカで電力施設が攻撃され、停電が起こったという記述があります。</p> <p>加治: 工場で溶剤の盗難事件が発生し、その対策として、工場の塀に沿って全域赤外線センサーを取り付け常時監視を行っているところがあります。ただかなりの初期投資がかかるのが泣き所です。また、動物の出入りで作動することも多いようです。徹底して管理するとしたら、赤外線センサー、照明、赤外カメラの3点セットまで必要でしょう。</p> <p>渡辺: これから無人化が進んでくると、入出退のカード管理を含み、本当にしっかり管理できるか不安な要素が多いですね。</p> <p>小林: 日本の場合陸上の境界はかなりしっかり管理しているところが多いのですが、港湾施設や、臨界立地の工場の水際が弱いのではないのでしょうか。</p> <p>牛山: 確かに海岸線は無防備で、釣り人の侵入も自由というところがあります。</p> <p>山岡: 港湾隣接工場で、船員が迷い込んでくる場所があり、そうした船員を意識して、工場内の通路表示を改めたことがあります。</p> <p>渡辺: タイ国のある工場の例ですが、境界に塀を巡らせ、ゲートを一つにして、常時はゲートを閉め、入出退者(車)を厳しく管理しているところがあります。これも盗難防止が主眼ではありますが。</p> <p>小林: 自分の職場を自分で守るという意識を強く持ち、不信な侵入者や、設備の不備の発見はすぐに報告し、対策、改善していく心構えが、大切ではないのでしょうか。社会生活での安全確保は、工場でも同じで、こうした企業文化を構築することが、必要でしょう。加えて、ハードを強化しても、テロを一企業一個人で守れるわけではないし、テロに限らず悪意をもった侵入者を防ぐということは現実的には殆ど不可能です。そのような事件を早く発見してその時どうするかということが重要であり、所謂、危機管理計画(クライシス・マネジメント・プラン)を準備する事も必要でしょう。</p> <p style="text-align: center;">【談話室メンバー】</p> <p style="text-align: center;">日置 敬、 岩村孝雄、 小林浩之、 加治久継、 小谷卓也、 溝口忠一、 長安敏夫、 渋谷 徹、 宇野 洋、 牛山 啓、 渡辺紘一、 山崎 博、 山岡龍介</p>		